

じんかん う  
人間に生まれて “つながりを生きよう” 295

以呂波耳本へ止、千利奴流乎和加

今年の二月は平均気温も低く雪もよく降り、久しぶりに本当に寒い冬らしい冬になりました。何度も除雪をしました。二月末でも本堂の屋根雪、境内は雪に囲まれ大雪警報が出るほどに多い時には、積雪も境内で八十cmでした。

これから三月になるにつれ暖かくなることを期待して三月の行事に備えたいと思います。



二月十一日の定期総会ですが案内をさせていただいたとおり役員会で昨年度事業・会計報告、今年度事業予定等話し合いで決めさせていただきました。九人の参加でした。



十七日の定例聞法会も中止とさせていただきましたが数名の方々からの要望で午前は「修行者と羅刹」と法話。午後は同朋新聞を読みながらの座談会をしました。読んでみての感想や、個々のいろんな思いを語り合いいつもとはちょっと違う聞法会となりました。

3月 真敬寺行事予定

- 6日(日) 真宗教室 午後二時  
7日(月) 正信偈の会 午後二時  
17日(木) 定例聞法会  
午後 法話 大島一声さん

コロナ感染状況のために  
変更することがあります、ご了承下さい。

余多連曾津禰那、  
良牟有為能於久、  
耶万計不己衣天、  
阿佐伎喩女美之、  
恵比毛勢須。

『金光明経勝王経音義』

## 定例聞法会の聞書

「修行者とらせつ」の幻灯



今月予定しておりました定例聞法会は、コロナ感染拡大に伴い、南砺市内でも拡大しておりやむなく中止になりました。それでも数人の方からの要望があり講師に尋ねましたが講師も体調が優れず、以前にお知らせしました修行者と羅刹の幻灯を中心に観ることになりました。

らせつ(羅刹)とは仏教用語で、大力で足が速く人を食うという悪鬼。後には仏教の守護神とされるようになった。(学研古語辞典)

「いろはにほへとちりぬるを  
わがよたれそつねならむ」

修行者がその修行の折ふと聞こえてきたその声に修行者は、人の有り様に気づかされ、この歌が事のきっかけになるお話でした。

私たちの人生を、今振りかえれば、一人一人にそれぞれに花を咲かせ、輝かせていた時期があるのではないのでしょうか。顔は活き活きと輝き、人が訪ねてくるほどに恋しくなるほどに明るかった時があったのではないのでしょうか。

それでも長続きはせずやがて衰

えていく場面もあったのではないのでしょうか？

「色は匂へど散りぬるを」  
(諸行無常)

そして、この世において季節は移り、時は瞬く間に過ぎて行きます。その中で、誰もが同じままに過ごしていることは不可能です。

世のならいでは、形あるものはいつか滅び、生ある者は必ずを迎え、

「我が世誰ぞ 常ならむ」

(是生滅法)

ここまでが修行者に聞こえてきた歌声を、彼自身が言葉に置き換え気づかされたのでしょうか。修行者はもつと先まで聞きたくなり、声の主を捜し求めますが、それは恐ろしい人をも食べてしまう羅刹だった。その風貌からは想像でき

ない歌ではあったけれど、修行者はどうしても続きを聞きたくて自らのいのちと引きかえに続きを聞こうとします。

私たちの現実も同じようなことになっていませんか、私自身の今の姿を、それからこの後にどうなっていくのだろうか、どう生きればよいのだろうか、聞きたい心がおきる時、命がけでも聞かすにはおれないと、あたわった「いのち」の時間を無駄に出来ないかと危険覚悟でも聞きたいと、これまでの方々は、聞法に足を運んでおられたのではないのでしょうか。

今月、コロナ下の中  
でも聴聞したいと願  
われておられました。



羅刹は続けて歌います。

「うめのおくやまけふこえて  
あさきゆめみしゑいもせず」

有為、(無為に対して) 私たちの人生には、縁によって大小の課題に向き合わなければならなかったり、避けては通れなかったりする場面もあったのではなかったでしょうか。歌の中ではそれが奥山の深山まで続くと歌われ、何も無い人生はなく、山あり谷あり、それが人生だとそして今日が有り、また明日がある。

「有為の奥山今日こえて」

(生滅滅已)

夢見て歩むことはとても大事

なことだけれども、現実を忘れて、夢ばかり追いかけるのも自らを失う人生にはなりはしないだろうか、ちゃんと現実の足下を見つめ、自分自身に気づき、一步一步、歩んでいることに、自分の人生を実感するのではないだろうか。何かに酔いしれて醒めることなく、空しく過ぎてしまつて、いつの間にか人生を終わろうとするのではなく、生と滅にとらわれず、しっかりと一年一年、一日一日、一時一時を歩むことが最後までその人の人生を、あたわった「いのち」を全うすることになりはしないだろうかと思えます。

「浅き夢みし 酔いもせず」

(寂滅為楽)

諸行無常 是生滅法  
 生滅滅已 寂滅為樂 (大般涅槃經)  
 毎朝五時半の梵鐘に刻まれている言葉でもあります。

迷いから離れた安心の境地が仏法の教えにあるのではないのでしょうか？

命がけに求められた修行者の姿に習い、このたび聞法しておられる方々と同席させていただきましたことはこの冬の大きな体験となりました。念仏に包まれながら雪の降る中を帰って行かれました。

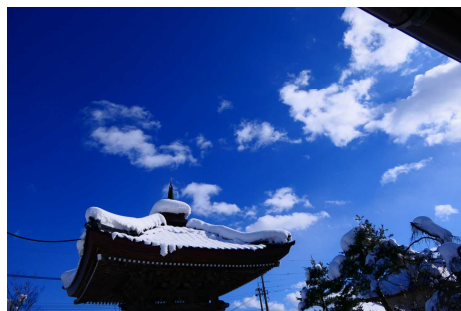
いろは歌を借字で読むと

伊路波耳保反都、知理沼留遠王可、与太礼祖ツ年奈羅无、宇謂乃於九也未(麻)介(氣)布(符)古延弓、安作畿由馬(面)弥志(土)會(廻)皮(非)文(裳)世寸  
 読めましたでしょうか？

先月の行事から

二月十一日  
 二月十七日

役員会  
 定例聞法会



二月二十三日の寒波で積雪が増し、本堂屋根雪が貯まってきました。積雪は75cmありました。本堂西側も大分積もっています。これから少しずつ気温が上がり、青空の見える日が待ち遠しいことです。

発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440



ホームページを開設しました

真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修

0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692